

## 高村 薫さん講演

―若者の自立と共生をめざす―

二十回生 浅野 倉平

平成二十三年十二月十七日、三十六回生で直木賞受賞作家である高村薫(本名「林みどり」)さんの講演会が関西大学サシオAVホールで開催されました。

この講演会につきましては、開催日の直前に千里山会事務局長の奥田さんよりメールで知らされましたが、会場が我が家の目前、直線距離にして約八十メートルの所にあることから、当日、聴講に行つて参りました。

当講演会は、平成二十三年度内閣府のパーソナルサポ―

ト事業を実施する大阪府において、広域事業として取り組む啓発活動として開催されたものであり、主催は吹田市ですが、吹田市教育委員会・大阪府パーソナルサポ―ト事業推進センター・関西大学等が後援をしております。

演題は首記の通り「若者の自立と共生をめざす」ですが、副題として「市民として何が出来るか」とありました。

講演内容につきましては、一生懸命にメモを取りましたが、メモを取る事自体が数十年ぶりの事であり、後で、読み返してみても、何をどのようにメモをしたのが良く判らず、その内容を正確にお伝えする事ができませんが、講演の趣旨を要約すると、先ず「社会に出られない若者をどうするかを一緒に考えたい」との前置があり、若者が社会に出られないと、本来、働いて税を納める立場にある者が税を納められなくなるばかりでなく、支出の増となる。この

問題を解決するのは政治ではなく、働き口を社会の価値観を変えて、地域住民が納税者として若者を自立させる事にある。現在、高齢者の福祉サービスの担い手である若者もいずれは世話を受ける立場になるが、経済的に自立出来ない若者は結婚が出来ない。若者には、是非、結婚が出来るようになり、子供を作つてもらいたい。でないと、経済成長が無くなる。

若者が就職出来ないのは、単に景気が悪いと云うのではなく、構造的問題に依るものであり、それには「外的要因」と「内的要因」がある。

外的要因としては、現在、古い人間が古い考えに立って企業のTOPを務めて若い時代を引つ張っているが、それでは、若者は将来を見通す事が出来ない。それが原因で、企業内で「鬱」を訴える若者が増加している。これは時代錯誤の価値観を若者に強要しているからに他ならないからだ。従つて、新しい時代の新しい価値観を持つ必要がある。

又、労働市場は高度成長時代には、終身雇用制度が機能しており、その時代には、本来、国家が担うべき福祉を担っていた。しかし、今や年金制度・医療制度が問題化し、根本的にその制度の改革が必要となつてきている。現在の雇用制度は正社員が減り、非正規社員が増加し、人材が消費品化されている。又、正社員と非正規社員の待遇は同じでなくてはいけない。同一労働・同一賃金になる事に依つて職業選択の範囲が広まり、「人」それぞれに合った仕事が出る事になる。

日本の経済成長を支えてきた製造業の海外進出に伴い、経済の裾野が狭まり、経済成長が見込めない現状では、ワークシェアリングなどで若者の雇用を増やすとか、高齢者がボランティアでしている様な事に報酬を確保して、若者に仕事として取り込ませるなどの方策が必要である。

これに対して、内的要因としては、今の若者には教養と

海外留学するなどの意欲に欠けており、逆に、その分優しくない、ボランティア活動などに励んでいるなど、若者のメンタリティーの変化が見受けられる。従って、若者にも新しい時代の新しい価値観持つてもらいたい等、内外要因を詳しく述べられた上で、その対応策として、地域社会が若者と積極的に接触をして、とりあえず、若者の働き口を地域社会がシステムとして作る必要があり、地方分権の時代を迎え、地産地消を推進し、地域で経済を回し、若者を取り込んでゆく必要がある。その為には住民はアイデアを絞ることが必要であるとの事で、講演を結ばれました。

講演の終わりには、質問を受ける時間が設けられ、四名が質問者選ばれましたが、私もその一人に選ばれ質問をして参りました。

高村薫さんは、評論家としては、かなり辛口の評論をさ

れる方との印象を持っておりましたが、質問事項には、言葉を選んで慎重に対応をされており、講演の口調も大変丁寧でした。

講演会場は五〇〇名が収容されるホールでしたが、参加者は、三〇〇名ほどで、ほとんどが中高年の方々でしたが、会場で、開演前の参加者の会話を、それとなく聞いていますと、高村薫さんのファンとおぼしき方も多く来ておられた様に見受けられました。

高村薫さんに付きましては、これまで、直木賞を受賞されたサスペンス小説作家だとは認識致して居りましたが、講演会のパンフレットに記載されている講師のプロフィールを拝見致しましたところ「日本推理サスペンス大賞」「日本推理作家協会賞」「日本冒険小説協会大賞」他、数々の賞を受賞されて居られます。

尚、講演会の模様につきましては、吹田市報「すいた」平成二十四年二月一日号のフォト・トピックスのページで左の様な記事と写真で紹介されておりました。

以上

12月17日、若者の自立と共生がテーマの講演会が関西大学で行われました。吹田出身で作家の高村薫さんが、不登校やひきこもりなどについて社会構造の問題点からわかりやすく解説。来場者は若者を取り巻く環境への理解を深めました。

